

日本癌病態治療研究会 第3代会長就任にあたって

日本癌病態治療研究会 会長
福島県立医科大学 器官制御外科学講座

竹之下 誠一

この度、日本癌病態治療研究会の会長を拝命いたしました。本研究会は1991年12月に癌患者個々の最適な治療法の確立を目指して創設されました。初代の磯野可一先生、第2代の生越喬二先生に続き第3代の会長となります。発足から20年以上経過いたしました。これまで21回の研究会を開催し、本年は昭和大学豊洲病院の松川先生のお世話で第22回研究会を開催する予定です。学会誌もスタイルの異なる英文誌 (Annals of Cancer Research and Therapy, ACRT) と和文誌 W' Waves を発行してまいりました。班研究も磯野名誉会長、生越前会長をはじめ諸先生方の御尽力により精力的に行われ、その成果は経時的に発表されております。このような多くの業績を上げながら研究会を育ててこられたお二人の会長には心から御礼を申し上げます。

本研究会には創設当初から変わることのない情熱と誠実さが存在します。しかしながら私も他の研究会と同様に、より透明性を備えた組織への変換を求められています。このような時代の要請を受けて本研究会も新しい形態に移行せざるを得なくなりました。現在、多方面の方々の御意見と御援助をいただき NPO 法人化の手続きを進めております。本年6月の第22回研究会ではさらに詳細な経緯について御報告ができるものと考えております。

福島では東日本大震災から2年を経過しましたが、いまだに解決されない問題とともに新たな社会問題もまた多く出現しております。この歴史的使命を果たす中で、会長の仕事をお引き受けすることになりましたが、私個人だけでなく、教室にとっても大変光栄なことと考え、教室員とともに研究会の発展に全力を尽くす覚悟です。

科学の進歩に伴う癌治療の変化は述べるまでもありません。創立当初の目的を踏まえ、新しい科学の潮流に即した癌治療の確立を目指さなければなりません。そのためには若い医師と研究者の参加が必須です。皆さまのご協力を得て、これまでの基盤をもとに、規模・内容ともに充実したものとなりますよう努力いたします。会員の皆さまとは研究会のあり方、運営について広く議論しながら、研究会で癌治療の進歩について熱く討論したいと思います。これまで以上に会員の皆さまの御協力と御支援が必要です。どうぞよろしく願いいたします。